

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡山市立三勲小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒703-8291
岡山県岡山市中区徳吉町一丁目 1-21

E-mail : sankuns@city-okayama.ed.jp

Website : http://www.city-okayama.ed.jp/~sankuns/

児童生徒数：男子 319 名 女子 236 名 合計 555 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

1、本校の ESD の特徴

本校では、ふるさと岡山や三勲学区の“人・自然・文化”を題材とした学習に継続して取り組み、地域の環境問題や人権問題、歴史や文化について学習を深めている。6年生になると、学区に隣接する岡山後楽園の能舞台で、日本の伝統文化であり、ユネスコの無形文化遺産に登録されている能楽の発表会を開催する。本年度で14年目を迎えるイベントであり、地域の文化財を守る意識とともに、伝統文化を継承する担い手を育てる機会となっている。このような学習を通して、ふるさとを誇りに思いふるさとを愛する心を育むとともに、自ら課題を見つけ、追求し、解決していこうとする主体的な思考力や判断力を養ってきている。



これらの学習を継続し発展させることで、「地域の文化を持続可能なものにするための担い手づくり」をテーマに三勲ESDプロジェクトとして実践していく。

2. ユネスコスクールとしての活動・全体計画

学年	学年のテーマ	内容	時期
1年	昔遊びをしよう	地域の方に昔からの遊び(おてだま, けんだま, こま, おはじき, たけうま)を教わったりいっしょに遊んだりする。教えていただいた地域の方を招待して、昔あそびの発表会を開き、練習の成果を披露したり、地域の方と交流したりする。	10月～11月
2年	わたしのまちをたんけんしよう	三勲学区にはどんなお店や公共の施設があるのか、探検を通して調べていく。実際に学校の外に出て見学することにより、三勲学区について知ったり、町の様子に気づいたりする。	7月～11月
3年	三勲の宝物をさがそう	三勲学区の歴史あるものや歴史的行事をさがし、地域住民から昔のくらしや歴史ある建物について話を聞くなどして調べる。学習の成果をまとめ、発表会を開く。	1月～3月
4年	三勲の環境を守ろう	ごみや水など環境について調べていく。地域の環境を守るために自分でできることを考え実践していく。	4月～9月
5年	三勲の歴史・文化を調べよう	地域の歴史や文化・人物について調べ、発表会を開く。	4月～7月
6年	能学習 伝統文化をさぐる	4～5月は能楽について調べ、6月から能楽師を講師に招き、実技を伴う「能学習」に取り組む。11月に岡山後楽園の能舞台で発表する。2月に学習のまとめを学校HPにて地域に発信する。	4月～2月

3. 特徴的な活動事例の紹介

第6学年「能学習 伝統文化をさぐる」

【単元の目標】

日本文化のすばらしさを実感したり、伝統文化を継承していく能楽師の生き方を学んだりするとともに、温かく見守り、支えてくださる地域の人々の思いに気づくことができる。

【実践の展開】

- ① 大島先生（能楽師）と出会う。（5月下旬）
喜多流能楽師、大島衣恵先生との初めての学習で、能の歴史や今年の演目の説明を受け、実際に使用する楽器や面にふれる体験をする。
- ② 謡や舞などの一斉学習（6～7月）
基本である正座や扇の持ち方、かまえ、すり足などを体験する。
- ③ パート別学習（9～10月）
自分の役割が決定し、シテ、ワキ、地謡に分かれて学習を進める。
- ④ 着物と袴をつけての学習（10月）
着付けの支援を受けて保護者に見守られ、緊張感の中、着付けをして通し練習を行う。
- ⑤ 校内発表会・岡山後楽園能舞台での発表（11月）
後楽園能舞台で能の発表会を行う。

【成果と課題】

プロの能楽師に指導を受けることで、児童は伝統文化を継承していく人間の真摯な生き方を学び取っていった。過去から受け継ぎ、未来へ渡していくべきものを大切にする心を育んでいくことができた。

また能舞台での発表用に6年生の児童全員の約90着もの着物・帯・袴が本校ではそろっている。これは、開始当時から地域の方々やPTAが一体となり継続的に寄贈、補修をしてくださっているものである。このように学校だけでは取り組みが難しい学習を、地域をあげて継続を願い、応援して下さったことで続けることができていると実感している。

4. 今年度の成果と課題

○成果

【学校としての成長】

岡山大学と連携した研修会や実践を通して、教職員のESDに対する理解が深まった。

【子どもたちの成長】

自ら進んで課題をもち、主体的に学習することで、様々な事象を自分のこととして捉える姿が見られるようになってきた。また、地域の方と触れあい、つながりを密にすることで人間関係ができ、いつも見守られているという安心感を感じたり、地域の方の願いを知って自分には何ができるかを考える児童も育ってきている。

○課題

今年度は今まで進めてきた「ふるさと学習」をESDの学力観で見直し実践してきた。しかし、それらの実践と各教科との連携は十分なものとはいえず、学校全体で体系的にESDを推進していく必要があると感じた。来年度はESDカレンダーを作成することで、より活動を整理し、各教科等と連携を強化していくことでESDとしての「ふるさと学習」の実践をより深めていきたい。

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（ ）